# **東**

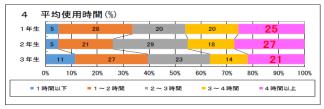
## 教育目標 たくましく生き抜く力と豊かな人間性の育成

# 学校だより、「あい

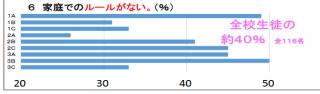
令和5年 10月25日 発 行

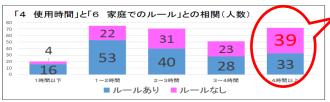
## 全校生徒を対象に携帯電話やスマートフォンに関わるアンケートを実施しました。

ニュース等でも大きく報じられているように、中学生が携帯電話やスマートフォン、インターネットに接続できる機器等により、いじめ問題やトラブルに巻き込まれる事例などが社会問題となっています。本校でも今年度「インスタグラムのライブで悪口を言われた」「LINEグループからはずされた」「遅くまで機器を使っていて体調不良になった」「自分が写った画像を勝手に送られた」等、多数の生徒や保護者による相談が多く寄せられています。学校においては、本アンケート結果から、客観的なエビデンスに基づいて、課題への対応についての理解を深めるとともに、トラブルを生まない環境づくりや、発達支持の側面からの生徒指導を強化したりすることに加えて、メディア・リテラシーについて主体的に考え、トラブルが発生しても自分たちで解決できる人間関係づくりや、相談体制の充実を図る所存です。全ての生徒が安全・安心に家庭・学校生活を送り、社会の構成員としての自覚をもった大人へと成長できるよう、各ご家庭におきましても本アンケートの結果を踏まえ、お子さんと今一度、携帯電話やスマートフォン等を家庭でどのように利用すべきか考える機会としていただきますようお願いいたします。















### ~東神楽中学校の現状について~

本アンケートは10月中旬までに、全校生徒を対象にして行いました。項目は記述式を合わせ全20項目に渡るものですが、紙面の関係上、すべての項目を公表できないことをご了承願います。

本校において、回答対象生徒の約95%が自分の携帯電話等、インターネット機器を持っていると回答していますが、4のグラフ桃色で示したように、日常に4時間以上使用していると答えた生徒数は72名、回答総数の約1/4という状況にあることが明らかとなっています。併せて、5のグラフに示したように、23時以降に主に使用している生徒は150名以上、回答総数の半分以上となっています。また、6「家庭でのルールがあるorない」という問いに対しては、各学級に開きはあるものの、回答総数の40%に当たる116名が「ルールがない」と答えています。

「4 使用時間帯」と、「6 家庭のルール」との相関関係を見ると3~4時間までの使用においては、各時間における「ルールあり」の割合は「ルールなし」よりも高いですが、4時間以上になると、人数が逆転していることがお分かりになるかと思われます。このことは、下のグラフに割合で表されるように、使用時間が長くなるほど「ルールがある」割合が低くなることを示しているのです。

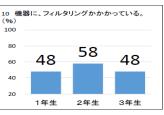
携帯電話は、与える側の責任がやはり大きいと思います。 当然のことですが、これらの機器は保護者が契約し、子ども に貸与しているものであり、管理責任は保護者にあります。 子どもの物ではないという認識を家庭でもつとともに、上手 に使えて初めて、便利な道具であるという認識を与えること が必要です。自由に与えて、自立を促す前に、ぶれないルー ル作りによって、子どもが約束を守っていたり、正しい情報 モラルやメディアリテラシーを身に付けている自身の成長を 自覚しながら、行動に責任のもてる大人としての階段を上ら せたいものです。

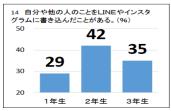
次に、左下8「機器のパスワードの把握、使用状況のチェックの可否」や、次ページ10「閲覧対象を制限する『フィルタリング機能』の設定の有無」についての回答から本校の実態を分析させていただきます。 (→次ページへ)











本校において「保護者が携帯のパスワードを知らず、チェックすること ができない」と答えた生徒は101名、総回答数の34%に上ることが明ら かとなっています。各項目との相関を図ると「ルールがあるご家庭におい ても、22.8%は保護者が機器をチェックできない」状況にあること や、「**ルールがないもののうち、半数以上(60名)が、**生徒が携帯をどの ように使っているかを、**保護者が確認できない状況にあること」**などが見 えてきます。また、本アンケートによると、オンラインゲームやLINEのや 17 書き込まれた具体的内容(人数) ■写真を載せられた 29 ■部活や授業の様子などを書かれた ■テストの点数を書かれた ■好きな人のことを書かれた 64 ■家でのことを書かれた 15 ■その他

りとり、インスタグラムのDM(ダイレクトメッセージ)や質問箱などで、これまでに「自分や他の人 のことを何らかの形で書き込んだ」経験があると回答した生徒は全体の35%、「書き込まれたことが ある」は28%ということが明らかとなっています。その中でも「他者が写っている写真を載せた」、

「自分の写真を載せられた(右17参照)」と答える生徒が多数いるなど、心配な状況があります。他者 が写っている写真や動画を無断で撮影したり、許可なく使用・保持することは法的制裁の対象にならな いものであったとしても、道義的に許されないこともあるでしょう。そして「面白さを共有したい」 「友達に相談する」という安易な判断のもと、**大人の知らない世界で、情報活用リテラシーの未熟なコ** ミュニティを介して、怒りや冷やかし、不適切な写真が伝播していくことは容易に想像できるのではな いでしょうか。(他者が写った不適切な写真と思われるものを、「これ見て、やばいよね?」と同意を求めグルー プライン載せるなど…。)

19 中学生として、スマホやタブ レットなどの機器は必要か。(%) ■必要 93.9 ■必要な



スマートフォ<u>ン等の不適切な使用による重大なトラブルが起きた際に、保護者が口にする言葉は「パ</u> スワードを聞き出せなかったので…」「子どもの人権・プライバシーを尊重し信頼していたので…」 **の2つです。前者の場合、管理者である保護者が生徒の使い方に危機感を覚えながらその対応に苦慮し** 

ていた状況が想像できるかと思われます。後者においては「使い 方を把握し、未然に防止できなかった」ことを後悔する方が多 いように感じます。当然、子どもの人権やプライバシーは尊重さ れるべきです。しかしながら「自由に使える状況を与えておいて、 子どもが、何をしているかわからない状況を作ってしまうこと」 とは別です。生徒が普段よく使っているゲーム、アプリ、SNSの パスワードや、IDを常に自分から保護者に見せられるようにして おくことや、フィルタリング機能 (グラフ10参照:本校50%以下) を用いるなど、ルールを守り、自身の使い方や相手とのやり 取りについて自信をもって保護者と共有できる日常があることが 何より大切です。

インターネット社会に誕生したデジタルネイティブ世代の中学 生にとって、スマホやタブレットは生活にかかせないものとな っています。しかしながら、すべての中学生が、正しい使い方に 加え、トラブルの未然防止の意識、対処の正しい方法を身に付け ているとは言えません。重要なことは、大人が「子どもたちを守 ること」を大前提として「子どもに自己指導能力を身に付けさせ ること」です。そのために「子どもとしっかり話し合い、家庭で **のルールをはっきりさせること**」「相談相手も含め正しい判断が できる力を育てること」「学校と家庭が協力して、子どもを守る 輪をつくること」が必要なのではないでしょうか。

収穫祭(特別支援学級) 1日(水)

2 日 (木) 町教研研究発表大会(3時間給食 なし、路線バス11:56)・漢字検定

3 日 (金)

(+)4 日 道新杯新人バドミントン大会(~5日)

5日

U15フットサル大会(北星中) (日)

文化の日

6 日 (月) 7 日 (火)

ケース会議・進路説明会(3年) 学校教育指導訪問・校内研修研

8日(水)

(1-B以外午前授業 路線バス13:37) 3年学力テスト(総合C)

2年学力テスト

10日 (金)

14日 (火)

18日 (土)

19日 (日)

22日 (水)

(木)

(月)

(水)

23日

27日

29日

12日

常任委員会

11日 (土)

(日)

U15フットサル大会(東神楽中)・近隣町卓球 大会(比布)

U15フットサル大会(東神楽中)・町民卓球大 会(ふれあい交流館)

三者懇談~21日

小中特別支援交流学習

U15旭川地区バスケットボール大会リーグ戦

北海道新人バドミントン大会旭川地区予選(旭川市)

通級説明会

勤労感謝の日

U15旭川地区バスケットボール大会リーグ戦

1・2年2学期末テスト~28日

職員会議・貯金日・校内点検日

下に、生徒の記述から見られた家庭でのルールについて記載します。 【庭でのルールの見直しにご活用いただければと思います。

- 他人の写真・動画を送付したり、加工したりしない。
- 使用時間帯を決め、使用しない時間帯は保護者が管理する。
- 0 人に顔を合わせて言えないことを文字で送らない。
- 0 食事・勉強中の使用は厳禁。トイレ、寝床にもち込まない。
- 0 スマホのトラブルをスマホで解決しようとしない。大人に…。 0
  - ルールを破ったときは保護者へ返却する。

→取り上げるのではありません。自主返納です 。

- 大人も同様の使用を心掛ける。子どものよいお手本に。
- ※ テストで何点、成績が…といったルールも耳にします。アメ とムチではなく、その先にあるものを見るよう指導していきた いものです。しなければいけないこと、すべきことを自己決定 できる階段を上らせていきたいですね。

※部活動の大会詳細(会場・時間等)につきましては、学校(83-2413) にお問い合わせ願います。